様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：２１１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６２８２２０２

研究課題名（和文）生活習慣病予防のための子どもの社会化促進プログラム

研究課題名（英文）Child socialization promotion programs for lifestyle disease prevention

研究代表者
古川　照美（KOGAWA, TERUMI）

青森県立保健大学・健康科学部・教授

研究者番号：６０３３３７２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、子ども自身の健康状態と生活習慣調査等を異なる地域で行い、地域特性を踏まえた上で、地域の人々との交流と、主体的な健康増進活動を目指すプログラムの開発に示唆を得ることを目的とした。地方と都市部では子どもの生活習慣の違いが認められ、親からみた生活環境、親自身の生活習慣の違いも認められた。生活環境要因が生活習慣に関連していることや、異なる地域においても子どもの頃からの地域との交流を持てるような環境要因が、生活習慣と関連することが示された。さらに地域との交流は子どもたちの社会性を高めることが示唆され、健康増進プログラムの開発には、地域特性を捉え、環境要因を考慮する必要がある。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to suggest ways to develop community interaction and health promotion activities and based on children's health conditions and lifestyles in different areas. The living environments and lifestyle habits of children and their parents were found to be quite different in rural and urban areas. Further, it was shown that environmental factors related to lifestyle habits and community interaction relate to other areas of social development. Furthermore, it is suggested that community interaction enhances the sociality of children. Therefore, in developing health promotion programs for children, it is necessary to consider area characteristics and environmental factors.

研究分野：地域保健

キーワード：生活習慣　地域特性　生活環境要因　子ども　親子

１．研究開始当初の背景

４人に１人が高齢者の時代に突入した。少ない若い世代が高齢者を支えていく世の中にあっては、次世代を担うこれからの子どもたちがそれぞれの地域でたくましく、健やかに育つために、知育、徳育、体育そして食育が地域全体で活性化し、健康なまちとしての環境になる必要がある。

子どもの健康に影響を及ぼす要因は様々あり、子ども自身の生活習慣や親の生活習慣の影響、気候や地理的要因、経済的要因、文化的要因が報告されている。さらに、これらの様々な環境要因の中で、健康行動を優先させるためには、人格特性を高める支援の有効性が示唆されている。人格特性と生活習慣の関連については、それまで生活してきた地域(環境)において、地域の一員であると認識する、社会化が関連していることが報告されている。しかしながら、近年の少子高齢化、核家族化等により地域の連帯感が希薄化し、地域の人々との接触が減り、子どもたちの社会化が困難な時代になっている。

２．研究の目的

本研究では、子ども自身の健康状態と生活習慣調査等を異なる地域で行い、地域特性を踏まえた上で、子どもの社会化を促す地域の人々との交流と、主体的な健康増進活動を目指すプログラムの開発に示唆を得ることを目的とした。具体的には、(1) 地域特性と子どもの生活習慣と健康状態の関連について(2)地域特性と親(大人)の生活習慣の関連について(3)地域特性を考慮した地域住民の社会化促進に関して保健師からのインタビューをもとに、文化・環境などの地域特性を捉えた健康課題解決に向けた地域組織活動および地域活性化の方策を検討する。

３．研究の方法

1) 地域特性と子どもの生活習慣と健康状態の関連に関する研究

(1)研究対象

都市部と地方の 7 つの中学校 1 年生から 3 年生、1,121 人を対象に調査を実施した。

(2)調査内容

生活習慣に関する調査項目は、就寝時刻、起床時刻、睡眠時間、運動の種類、運動時間、テレビ・ゲーム時間、朝食欠食、食事内容についてであった。

(3)分析方法

回収率は 93.4%であり、本研究では欠損値のない 997 人を解析の対象とした。割合の差の検定にχ^2検定、2 群間差の検出に t 検定を用いた。さらに、学年、性別を共変量とした共分散分析を実施した。

2) 地域特性と親(大人)の生活習慣の関連に関する研究

(1) 研究対象

地方の対象者は、A 県 A 町(人口約 1 万 9 千人)の中学校（４校）に通う生徒の保護者と、B 町(人口約 1 万人)の中学校（１校）に通う生徒の保護者とした。また、都市部の対象者として東京都 23 区内の中学校（１校）に通う生徒の保護者および 23 区外の中学校（１校）に通う生徒の保護者（合計 2,218 名）を対象とした。

(2) 調査内容

性別、年齢、学歴、家族形態、雇用形態、生活習慣について質問紙調査を行った。家族形態は、配偶者の有無、家族員数、子どもの数について尋ねた。雇用形態については、正職員、非正職員、自営業、その他とした。生活習慣は、朝食欠食の有無、生活が規則的であるか、週 1 回以上飲酒するか、現在喫煙しているか、定期的に運動しているか、起床時刻、就寝時刻についてであった。

(3) 分析方法

1,138 人から回答が得られ(回収率 51.3%)、欠損値のない 1,010 人(地方：626 人、都市：384 人）を解析の対象とした。地方と都市の比較について、割合の差の検定はχ^2検定、平均値の
差の検定には t 検定を用いた。

3) 地域住民の社会化促進に関する質的研究

(1) 研究対象

対象は、人口規模、地理的条件の異なる 4 地域(区、町、村)の地区組織活動等に従事する住民、保健師等である。

(2) 調査内容

訓練を受けたエスノグラファー7 名による地区踏査および、120 分程度のフォーカスグループインタビューでの調査を行った。

地区踏査では、「地区視診のガイドライン」を用いて、それぞれの地域特性を把握した。またインタビューでは、地区特性や、住民の健康観、住民の問題解決行動とその能力・解決手法、住民組織の伝承とリーダー育成、その他住民の健康に対する意識や行動についてインタビューを行った。

(3)分析方法

インタビュー調査で得られたデータを「地域の特徴的な文化」、「住民の力」、「組織化の力について」に関してカテゴリ化した。次い

で、各地域の特徴と社会化・組織化の特性を考慮するため、各地域について３カテゴリでの分析を行い、地域特性とその地域の社会化・組織化促進に関する特性を検討した後に、地域特性を比較・検討しながら、7 名のエスノグラファーの討議を通して、地域における社会化情勢・促進に関する特性の考察を行った。

４．研究成果

1) 地域特性と子どもの生活習慣と健康状態の関連に関する研究

研究結果から、地方と都市部の中学生の生活習慣の違いが明らかとなった。睡眠や運動、朝食欠食に関しては、地方の方がよい状況であると考えられるが、食事内容については、地方では野菜摂取が不足している可能性が示唆された。また、BMI、すなわち体格に影響する生活習慣が、地方では認められず、都市部では朝食欠食と睡眠時間で説明された。地方と都市部の中学生の体格に影響する要因は、異なる可能性が示唆された。さらに、朝食欠食や家族そろっての食事といった食生活と、「周りから大切にされている」という思いとの関連が明らかとなり、特に女子において関連が認められた。朝食を欠かさないことや家族そろっての食事は、情緒的安定をもたらし、ひいては肥満予防につながると考えられた。

2) 地域特性と親(大人)の生活習慣の関連に関する研究

地方と都市部の親の生活習慣の比較をした結果、地方では喫煙あり、運動なしが男女とも多く、加えて地方の女性は朝食欠食、生活が不規則であり、地方の生活習慣は良い状況とは言えない結果であった。地方の男性では有意に飲酒が多く、男女とも地方で喫煙が多く、運動する人が少なかった。女性では、地方で朝食欠食が有意に多かった。都市部と比較して、地方の男女の生活習慣はよいとはいえず、親になる以前から良好な生活習慣を意識、形成していく必要性が示唆された。

喫煙には、地方、都市部ともに「近隣の人間関係の結束」の関連が認められた。都市部において運動は「近隣の人間関係の結束」「治安、事故の危険性」の関連が認められたが、地方では環境要因との関連は認められなかった。喫煙や運動において、施設やサービスとしての良好な環境より、近隣の人間関係の良好さがよい生活習慣を形成する鍵となる可能性が示唆された。

3) 地域住民の社会化促進に関する質的研究

A 村行政は住民のサポート的役割、住民は意見を行政に伝え主体的に活動、公民館が互いの橋渡し的役割を担っていた。それぞれが関係を互いに認識したうえで課題を共同で、また PDCA サイクルの循環すべてに積極的に参加することで、互いの自己効力感を高め、継続的な地域での健康問題への取り組みを可能にしていた。

B 区は時間的・金銭的に余裕がある住民が多く、健康を価値あるものとして捉えた活動や事業を行政と共に展開し参加することができていた。しかし、住民がもつ膨大な情報を取捨選択する必要があり、健康に関する専門職の存在が欠かせない。

地域組織が活発な活動をしている地域は、健康問題を自分たちのものとして考えている。その地域出身者であれば、先輩たちの組織づくりについて、家族からも教えられる。各世代の組織があれば順次つながっていく。しかし、地域の組織でつながるより、個人的につながる方が楽であるため、つながっていかない現状がある。組織のリーダーが不在になると組織はそのうちすたれてくるため、リーダーをいかに育成していくかも課題である。地域組織への入口は、子どもに関するところであり、子どもを通じて様々な世代が地域組織を形成、維持していくことが明らかとなった。‘住民の地域でつながりたい’気持ちを育み、多世代で構成されるよう意図的に関わる必要がある。そのためにも子どもの頃から地域組織に関わる体験が必要と思われた。

以上のことから、子どもは、親をはじめとする地域の人々に大切にされていると感じることにより、良好な生活習慣を身につけることができ、さらに子どもの親の生活習慣も「近隣の人間関係の結束」の関連が認められたことから、地域の人々とのつながりを促進していくことが、ひいては生活習慣病の予防につながると考えられる。さらに地域との交流は子どもたちの社会性を高めることが示唆され、子どもの社会化を促す地域の人々との交流の方法は様々考えられるが、公民館であったり、学校行事であったりと地域の特性を捉えながら、さらに、親をも巻き込んだ取り組みが必要と思われた。健康増進プログラムの開発には、地域特性を捉え、環境要因を考慮する必要がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計　38 件）

(1)Kogawa T, Ebina S, Kashiwakura I: Association between oxidative stress and family history of hypertension, The Journal of Maternal-Fetal & Neonata Medicine. 27(Suppl.1): 256 ,2014.

(2)古川照美、深作拓郎、増田貴人:幼児の父親・母親の地域愛着と向社会性の関連，第 61 回日本小児保健協会学術集会講演集,121,2014.

(3)増田貴人、古川照美、深作拓郎: 幼児の父親・母親の地域愛着と環境満足度の関連，第 61 回日本小児保健協会学術集会講演集,120,2014.

(4)太田竜馬、古川照美: 中学生の生活習慣と健康状態の地域差，第 63 回東北公衆衛生学会講演集,31,2014.

(5)古川照美、西村美八、倉内静香、高橋一平、沢田かほり、木田和幸、中路重之: 中学生の肥満と血中脂質の関連，日本公衆衛生雑誌,61(10),421,2014.

(6)松尾泉、古川照美、柏倉幾郎、笹森桂子、戸沼由紀、高橋一平、中路重之: 小学 5、6 年生の酸化ストレスとその関連要因，第 85 回日本衛生学会学術集会,70,S211,2015.

(7)古川照美、柏倉幾郎、戸沼由紀、松尾泉、笹森桂子、高橋一平、中路重之: 酸化ストレスと心血管リスク因子との関連-小学生 2 年間の追跡調査-,第 85 回日本衛生学会学術集会,70,S211,2015.

(8)鈴川一宏、古川照美 、具志堅武: 地方と都市における中学生の身体症状と生活習慣の関連，日本公衆衛生雑誌,62(10),320,2015.

(9)具志堅武、古川照美、鈴川一宏: 地方と都市における中学生の体格に関する生活習慣要因，日本公衆衛生雑誌,62(10),320,2015.

(10)古川照美 、鈴川一宏、具志堅武: 地方と都市における中学生の生活習慣の比較，日本公衆衛生雑誌,62(10),320,2015.

(11) 吉田麻由美、正木由里子、古川照美: 保健師による地域住民の社会化促進に関する質的研究－青森県－，日本公衆衛生雑誌,62(10),249,2015.

(12) 古川照美: 子育て世代における社会参加学習経験と親性、育児観、地域愛着、地域活動参加意欲の関連，日本地域看護学会第 18 回学術集会講演集,77,2015.

(13) 中嶋真哉、小林佳人、古川照美: 向社会性と組織化に関する文献検討－地域住民の向社会性向上教育プログラムの開発に向けて－，日本地域看護学会第 18 回学術集会講演集,104,2015.

(14) 小林佳人、中嶋真哉、古川照美: 地域における組織の社会化に関する文献検討，日本地域看護学会第 18 回学術集会講演集,105,2015.

(15) 西村美八,倉内静香、古川照美: 中学生における睡眠状況と身体症状の関連－平日および休日の活動・休息状況からの検討，日本地域看護学会第 18 回学術集会講演集,110,2015.

(16) 古川照美、鈴川一宏 、具志堅武: 中学生の親のヘルスリテラシーと生活習慣－地方と都市の比較－，日本ヘルスプロモーション学会第 13 回学術大会抄録集,31,2015.

(17) 鈴川一宏、具志堅武、古川照美: ヘルスリテラシーと生活環境の質との関連　－地方と都市の比較－，日本ヘルスプロモーション学会第 13 回学術大会抄録集、32,2015.

(18) T Kogawa, T Fukasaku, T Masuda, M Ojima, Y Iino: Correlation between prosocial behavior, community attachment, and recognition of kizuna in fathers and mothers, The 6th International Conference on Community Health Nursing Research,2015.

(19) T Kogawa, T Masuda, T Fukasaku, M Ojima, Y Iino: Correlation between service learning experiences, view of child rearing, community attachment, and prosocial behavior, ENDA & WANS Congress 2015.

(20) 古川照美、戸沼由紀、具志堅武 、鈴川一宏: 地方と都市における中学生の親の生活習慣の比較，体力・栄養・免疫学会雑誌,25(2),169-171,2015.

(21) 鈴川一宏、具志堅武、戸沼由紀、古川照美: 地方と都市の生活環境の質の比較，体力・栄養・免疫学会雑誌,25(2),172-174,2015.

(22) 具志堅武, 古川照美, 戸沼由紀, 鈴川一宏: 生活環境の質と生活習慣の関連－地方と都市部の比較－，体力・栄養・免疫学会雑誌,25(2),175-177,2015.

(23) 増田貴人、深作拓郎、古川照美: 乳幼

児の父親・母親の生活環境満足度に影響する地域感要因，小児保健研究,第 63 回日本小児保健協会学術集会講演集,190.2016.
(24) 古川照美、深作拓郎、増田貴人：乳幼児の父親・母親の地域感と社会参加意欲の関連，小児保健研究,第 63 回日本小児保健協会学術集会講演集,190,2016.
(25) T Kogawa, T Masuda, T Fukasaku, M Ojima, Y Iino: Correlations between volunteering, child rearing views, and parental development, The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing,2016.
(26) 長谷川あゆみ，古川照美：中学生の体格認識と生活環境の関連，東北公衆衛生学会講演集,65th：30,2016.
(27) T Kogawa, I Kashiwakura: Follow-up Survey of Oxidative Stress Markers for Three Years in Junior High School Students, ISEE-ISES AC2016.
(28) 鈴川一宏 ，具志堅武，戸沼由紀,古川照美：中学生における家族の健康心配感と生活習慣の関連，日本公衆衛生雑誌,63(10),472,2016.
(29) 古川照美，戸沼由紀，具志堅武 ,鈴川一宏：中学生の被受容感と生活習慣,肥満の関連，日本公衆衛生雑誌,63(10),472,2016.
(30) 吉田麻由美,正木由里子,中嶋真哉,小林佳人,古川照美：保健師による地域住民の社会化促進に関する質的研究 第 2 報，日本公衆衛生雑誌,63(10),397,2016.
(31) 小林佳人,中嶋真哉,吉田麻由美,正木由里子,古川照美：保健師による地域住民の社会化促進に関する質的研究 第 3 報，日本公衆衛生雑誌,63(10),397,2016.
(32) 古川照美,鈴川一宏,具志堅武：中学生の被受容感と身体症状の関連，学校保健研究,58,179,2016.
(33) 古川照美、鈴川一宏、戸沼由紀、具志堅武：中学生の地域愛着と生活環境の質との関連，日本ヘルスプロモーション学会第 14 回学術大会抄録集,64,2016.
(34) 鈴川一宏、古川照美、戸沼由紀、具志堅武：中学生の地域愛着と生活習慣の関連，日本ヘルスプロモーション学会第 14 回学術大会抄録集、65,2016.
(35) 山内とし子、小林佳人、古川照美：保健師による地域住民の社会化促進に関する質的研究（第 4 報），日本ヘルスプロモーション学会第 14 回学術大会抄録集,62,2016.
(36) 古川照美、戸沼由紀、具志堅武、鈴川一宏：小学 5 年生における酸化ストレスと果物、野菜摂取の関連，日本衛生学会誌,72,s243,2017.
(37) 鈴川 一宏,具志堅武，重田唯子，則行美生，松澤隼人，田丸由紀子，酒本勝太，木村直人，古川照美：日本人学校に通う中学生の生活習慣が心理的ストレスに与える影響，第 71 回日本体力医学会大会予稿集,200,2017.
(38) 具志堅武,鈴川一宏，重田唯子，加藤愛美，鈴木菜々，田丸由紀子，木村直人，古川照美：中学生における睡眠時間が TMD に及ぼす影響，第 71 回日本体力医学会大会予稿集,199,2017.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
古川 照美（KOGAWA TERUMI）
青森県立保健大学・健康科学部・教授
研究者番号：60333720

(2)研究分担者
鈴川 一宏（SUZUKAWA KAZUHIRO）
日本体育大学・体育学部・教授
研究者番号： 10307994
中路 重之 （NAKAJI SIGEYUKI）
弘前大学・医学研究科・教授
研究者番号：10192220